

2018年3月期 決算説明会

2018年5月25日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

本日の内容

【第一部】

1. 2018年3月期 決算概要
2. 2019年3月期 業績予想

【第二部】

3. 経営環境
4. 中期経営計画
「バリュークリエーション2020」の進捗



1. 2018年3月期 決算概要

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2018年3月期の決算概況です。

2018年3月期 決算ハイライト

中期経営計画「バリュークリエーション2020」の2年目は、大幅な増収増益を確保。海外は現地通貨ベースでも好調を維持。

売上	連結	連結売上高は、前期比111.9%、43億円増の410億円。
	日本	前期比107.9%の171億円。 電子部品・半導体関連、食品・飲料関連、医療関連の受注も好調を維持。
	中国	前期比115.3%の201億円。 新たに取組んでいる高付加価値の戦略製品が大きく伸長。
	その他	前期比113.6%の37億円。 欧州、シンガポール、インドネシアが好調に推移。
利益		営業利益は前期比142.8%の28.4億円。 設備投資や研究開発投資の減価償却費等による販管費の増加はあったものの、売上増加による利益増に加えて、工場の稼働アップによる原価率の良化により、増益。経常利益は前期比145.7%の27.3億円。 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比130.0%の17.8億円。
ネット資金		親会社株主に帰属する当期純利益の計上等により、期首から9.6億円増加。

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

3

■ 2018年3月期の決算ハイライトです。

■ グループ全体で大幅な増収増益となり、上場来最高の売上・営業利益を更新することが出来ました。

■ 日本では、自動車関連が回復して来たほか、引き続き、電子部品・半導体関連が好調だったことに加え、食品・飲料関連、医療関連も売上を底上げする形で大きく伸長しました。

■ 中国では、引き続き、自動車関連、電子部品・半導体関連が好調だったことに加えて、注力している高付加価値の戦略製品が伸長しました。

その他の地域では、欧州、シンガポール、インドネシアが好調でした。

■ 営業利益は、前期比142%の28億43百万円となり、販管費は増加したものの、売上増加による利益増に加えて、工場の稼働アップによる原価率の改善により、大幅な増益となりました。

■ 経常利益は前期比145%の27億31百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比130%の17億88百万円と、ともに大幅な増益となりました。

■ ネット資金は、当期純利益の計上等により、資金創出と有利子負債削減が進んだ結果、期首から9.6億円の増加となりました。

損益計算書サマリー

2018年3月期は、2017年11月と2018年2月の2段階で通期の業績予想を上方修正。その後、国内事業も堅調に推移したこともあり、結果として上場来最高益を更新。

(単位:百万円)

	2017年3月期 (実績)	2018年3月期			
		修正予想 (2018/2/9公表)	実績	前期差 (前期比)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	36,648	40,900	41,025	4,376 (111.9%)	125 (100.3%)
営業利益	5.4% 1,990	6.7% 2,720	6.9% 2,843	852 (142.8%)	123 (104.5%)
経常利益	5.1% 1,874	6.4% 2,620	6.7% 2,731	857 (145.7%)	111 (104.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.8% 1,375	4.2% 1,710	4.4% 1,788	413 (130.0%)	78 (104.6%)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

4

■決算数値の概要です。

売上高は410億25百万円で、前期比111%、43億76百万円の増収となっています。

営業利益は28億43百万円、

経常利益は27億31百万円、

親会社株主に帰属する当期純利益は17億88百万円となり、売上高、利益の全ての項目で、前年度実績と、2018年2月9日に上方修正した業績予想を上回ることが出来ました。

■中期経営計画「バリュークリエーション2020」の2年目としては、以下の経営数値を目標として掲げて取組んでまいりました。

売上390億円、

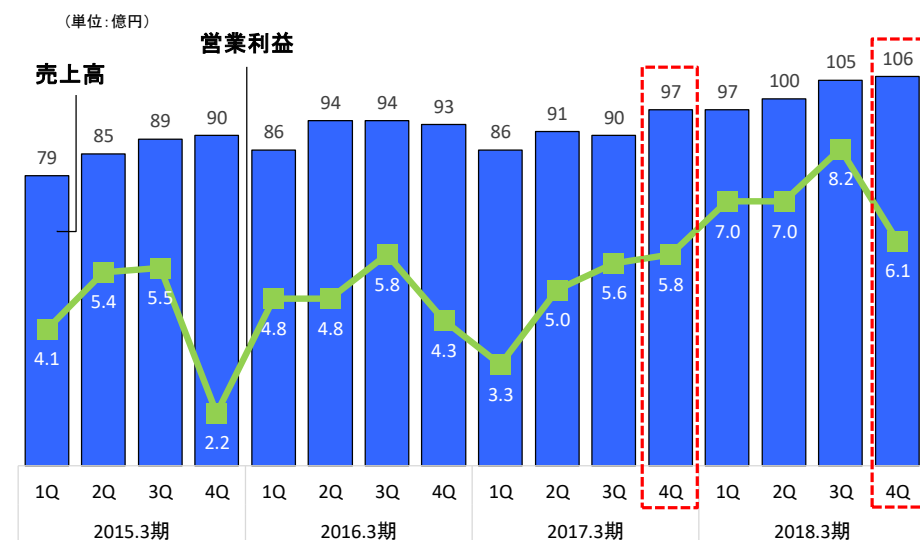
営業利益22億円、

当期純利益15億円、

中計の目標についても、全て達成することが出来ました。

売上高と営業利益の推移

四半期ベースで売上高は上場来最高を更新、営業利益も高水準を維持。



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

5

■ 四半期ベースの売上高と営業利益の推移です。

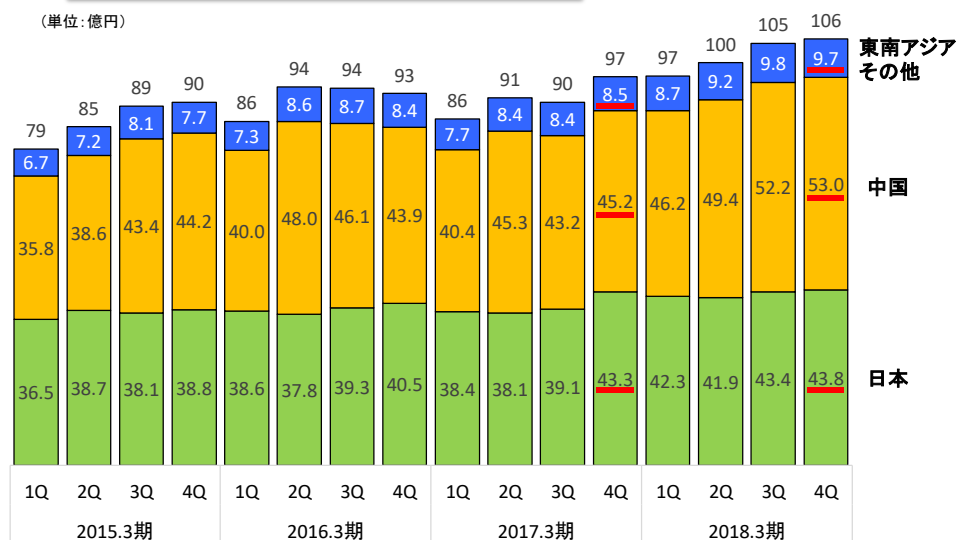
■ 第3四半期に引き続き、第4四半期についても、売上は上場来最高をまた更新することができました。

■ 営業利益については、業績予想にも織り込んでいた通り、将来への仕込みなどの費用を計上したことから、第1四半期～第3四半期と比べて、やや減少傾向となりました。

地域別売上高

四半期ベースで、全地域が増収を達成。

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

6

■ 地域別の売上高です。

■ 日本は、第3四半期に引き続き、自動車関連が回復してきたことに加え、電子部品・半導体関連が好調を維持し、食品・飲料関連、医療関連等も売上を底上げする形で伸長したため、前年同期を上回る売上となりました。

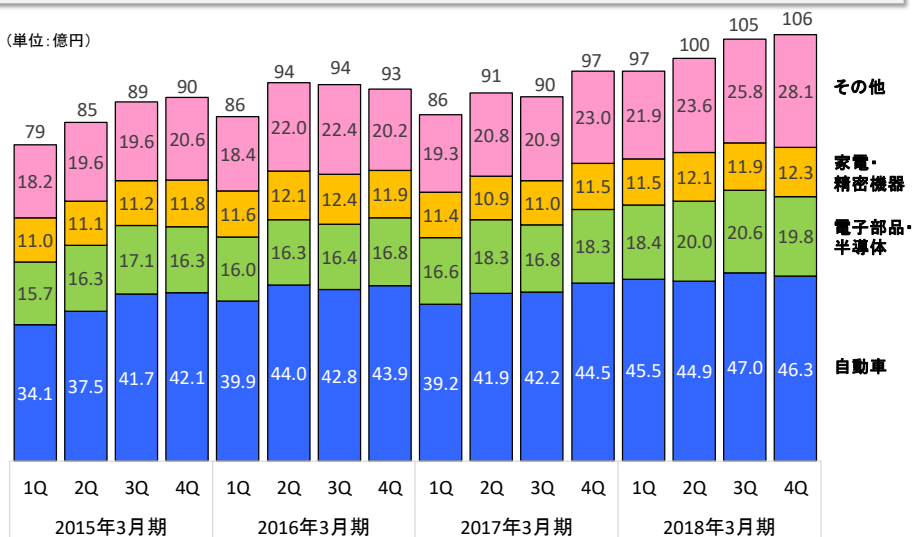
■ 中国は、引き続き自動車関連と電子部品・半導体が堅調に推移し、新たに取組んでいる高付加価値の戦略製品が伸長したこともあり、前年同期を上回りました。

■ 東南アジアその他は、欧州、シンガポール、インドネシアが好調に推移した結果、前年同期を上回りました。

業種別売上高

高付加価値分野の食品・飲料関連の受注が拡大する等、「その他」の伸長が貢献。

(単位: 億円)



注) 中国における業種区分修正に伴い、2017年3月期のデータを修正

■業種別売上高です。

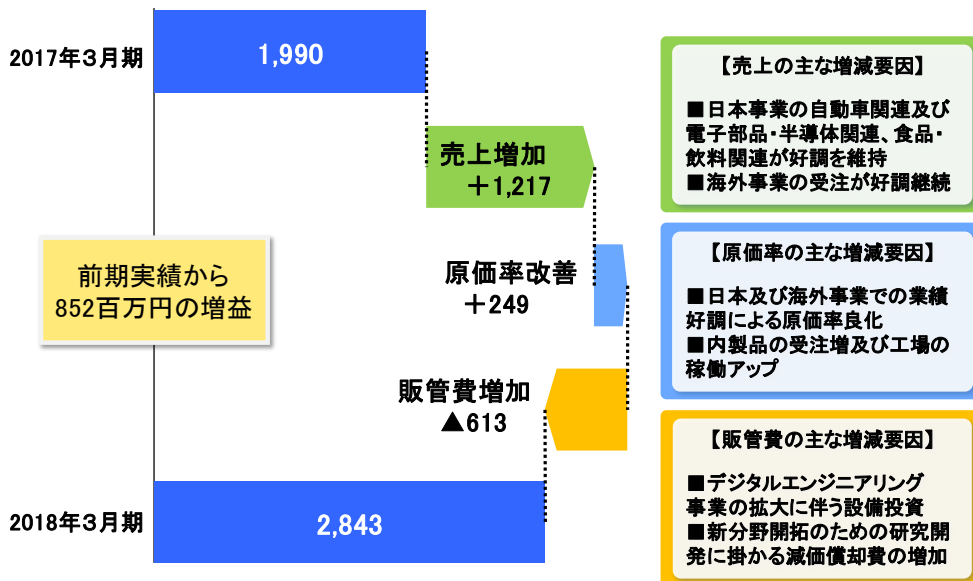
■第3四半期に引き続き、自動車関連の売上が日本・中国ともに堅調で全体を底上げしました。

■スマホ向け及び車載向け半導体の好調もあり、電子部品・半導体関連が伸長しました。

■その他の中では、高付加価値製品として当社グループが注力している食品・飲料関連、医療関連等も好調に推移しています。

営業利益増減

(単位:百万円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

8

■営業利益の増減分析です。

■前期実績の19億90百万円から、

売上増加の影響により12億17百万円、また工場の稼働アップなどによる原価率良化により、2億49百万円の利益増となりました。

一方、2年前から取組んでまいりました「リバースエンジニアリング事業」を、先ごろ「デジタルエンジニアリング事業」としてリニューアルしましたが、この事業の拡大に伴う設備投資や研究開発投資等による減価償却費の増加による販管費の増加があり、6億13百万円の利益減となりました。

■2018年3月期の実績としては、28億43百万円となり、前期に対し、8億52百万円の増益となっています。

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2017年3月期末	2018年3月期末	比較増減
総資産	29,451	32,560	3,108
総負債	15,275	16,385	1,110
うち有利子負債	6,857	6,332	▲524
純資産	14,176	16,174	1,998
ネット資金	▲3,526	▲2,561	965
自己資本比率	48.1%	49.7%	1.6pt
自己資本利益率(ROE)	9.8%	11.8%	2.0pt
設備投資額(無形固定資産含む)	2,909	2,776	▲133
減価償却費(無形固定資産含む)	1,396	1,597	201

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

9

■財務状況です。

■総資産につきましては、固定資産、棚卸資産、売掛債権等の増加により、325億60百万円となりました。

■総負債は、支払手形、買掛金等の増加により、163億85百万円となりました。但し、その中でも有利子負債は5億24百万円の削減ができました。

■純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加等により、161億74百万円となりました。

■自己資本比率は、前期末より1.6pt上がり、49.7%、ROEは、前期末より2.0pt上がり、11.8%となりました。

■設備投資額は、27億76百万円という結果になりました。

減価償却費を大きく上回る設備投資を続けながらも、財務体質は改善することが出来たという点で、好決算であったと自負しています。

キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,785	3,393
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,770	▲2,335
フリーキャッシュ・フロー	▲985	1,058
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,199	▲738
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	33	419
現金及び現金同等物の期末残高	3,269	3,689

■キャッシュフローの状況です。

■税金等調整前当期純利益25億16百万円、減価償却費15億97百万円等の収入に対して、法人税等支払、売掛債権や棚卸資産の増加などによる支出はあったものの、営業キャッシュフローは33億93百万円の収入となりました。

■単体や中国での固定資産取得により、投資キャッシュフローは23億35百万円の支出となりましたが、営業キャッシュフローが大幅に投資キャッシュフローを上回ったことで、フリーキャッシュフローは10億58百万円のプラスとなりました。

このうち、約7億円は有利子負債返済に充当し、最終的に現金及び現金同等物の期末残高は4億円の増加となりました。

2. 2019年3月期 業績予想

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2019年3月期の業績予想です。

2019年3月期 業績予想概況

2019年からカタログ品生産を開始するベトナム工場のフェーズⅡ移行期であり、ベトナム工場へ下期に比重を置いた集中投資を実施。

売上	連結	ベトナム工場でのフェーズⅡ投資を計画。バリューチェーン2020後半に大きなリターンを見込む。欧米での販売体制確立等、体質強化や構造改革を推進し、前期比102.4%の420億円を見込む。
	日本	自動車関連、新規取引のお客様が増加している半導体関連以外にも、食品・飲料関連の拡販を図り、前期比101.0%の173億円を見込む。
	中国	増設が完了し、5月に本稼働を開始する大連工場での生産強化を行い、高付加価値製品を拡販し、前期比103.0%の207億円を見込む。
	その他	前連結会計年度に営業を開始した米国販売拠点や東南アジア・インドでの事業拡大及び欧州での販路拡大を行い、前期比105.5%の39億円を見込む。
利益		ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、日中で高付加価値製品の拡販や、その他の地域での事業拡大等による増収を計画。営業利益は29.2億円、当期純利益は20.7億円を見込む。

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

12

■2019年3月期は、中期経営計画「バリューチェーン2020」の3年目として、最終年度の経営目標達成を確実にするための施策に注力し、2019年から第2フェーズとして完成品の生産を開始するベトナム工場への投資や人員増強を下期中心に実施します。また、欧米での販売体制確立等、体質強化や構造改革を推進します。

【売上】

■日本は、自動車関連、新規取引のお客様が増加している半導体関連以外にも、食品・飲料関連の拡販を図り、前期比101.0%の173億円を見込んでいます。

■中国は、増設が完了し、5月に本稼働を開始する大連工場の生産強化を行い、高付加価値製品を拡販することで、前期比103.0%の207億円を見込んでいます。

■アジア他の地域は、前連結会計年度に営業を開始した米国販売拠点や東南アジア・インドでの事業拡大及び欧州での販路拡大を行い、前期比105.5%の39億円を見込んでいます。

【利益】

■今後、ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、日中での高付加価値製品の拡販や、米国等、その他の地域での事業拡大等による増収を計画していますが、2019年3月期は、まだそのための仕込みの段階にあります。

■来年度からの成果の刈り取りを確実なものとするため、ベトナムへの投資、人員の増強が先行するのがこの2019年3月期になります。

したがって、営業利益は29億2000万円、親会社株主に帰属する当期純利益は20億7000万円と、前期比で微増にとどまっていますが、そのような中でも、増益基調は確実に維持して行きたいと考えています。

2019年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)	前期差	前期比
売上高	41,025	42,000	974	102.4%
営業利益	6.9% 2,843	7.0% 2,920	76	102.7%
経常利益	6.7% 2,731	6.7% 2,800	68	102.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.4% 1,788	4.9% 2,070	281	115.7%
自己資本利益率 (ROE)	11.8%	12.5%	0.7pt	

2019年3月期 配当予想

20円50銭 = 中間 10円25銭 + 期末 10円25銭

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

13

■2019年3月期の業績及び配当の予想です。

■売上420億円、営業利益は29億20百万円、そして経常利益28億円、親会社株主に帰属する当期純利益20億70百万円を見込んでいます。

「バリュークリエーション2020」3年目の経営目標値は、売上420億円、営業利益は25億円、親会社株主に帰属する当期純利益は17億円であり、営業利益以下は1年前倒しで堅調に推移しています。

■最終年度(2021年3月期)には、目標として掲げた数値以上の成果を狙っていくためにも2019年からカタログ品の生産を開始するベトナム工場への集中投資を実施し、生産体制を固めるための大切な1年となります。

「バリュークリエーション2020」達成のためには、欧州の販路拡大なども重要な課題ですので、その道筋についても対応したいと考えています。

■配当については、昨年よりも3円75銭増配の年間20円50銭を予定しています。内訳は、中間・期末配当ともに10円25銭ずつです。

■引き続き、高収益体質を構築することにより、増益・増配基調を堅持しつつ、盤石な財務基盤と高ROEの両立を目指します。

3. 経営環境

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

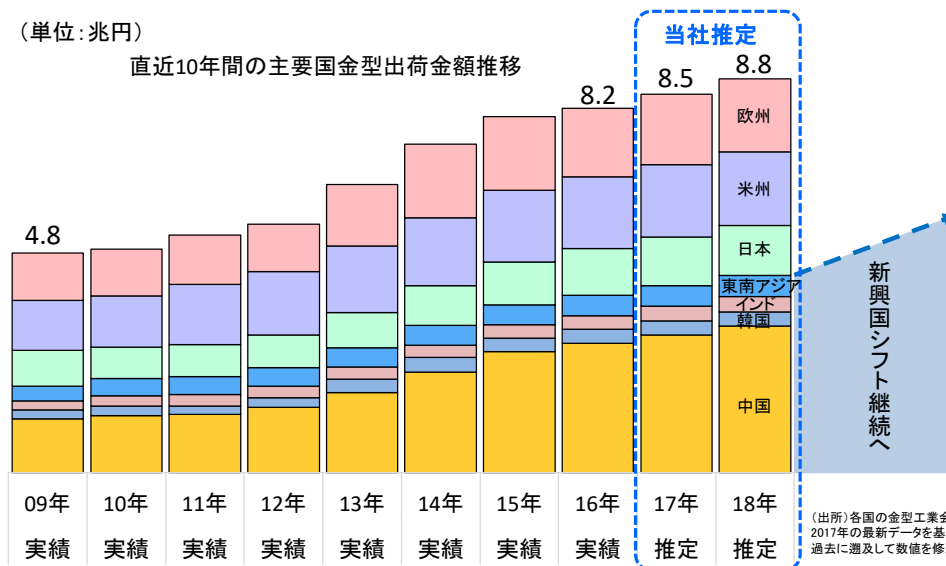
■経営環境です。

金型市場の予想(金額)

リーマンショック直後をボトムに着実に回復。右肩上がりの金型市場。

(単位:兆円)

直近10年間の主要国金型出荷金額推移



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

15

■世界の金型市場の動向です。

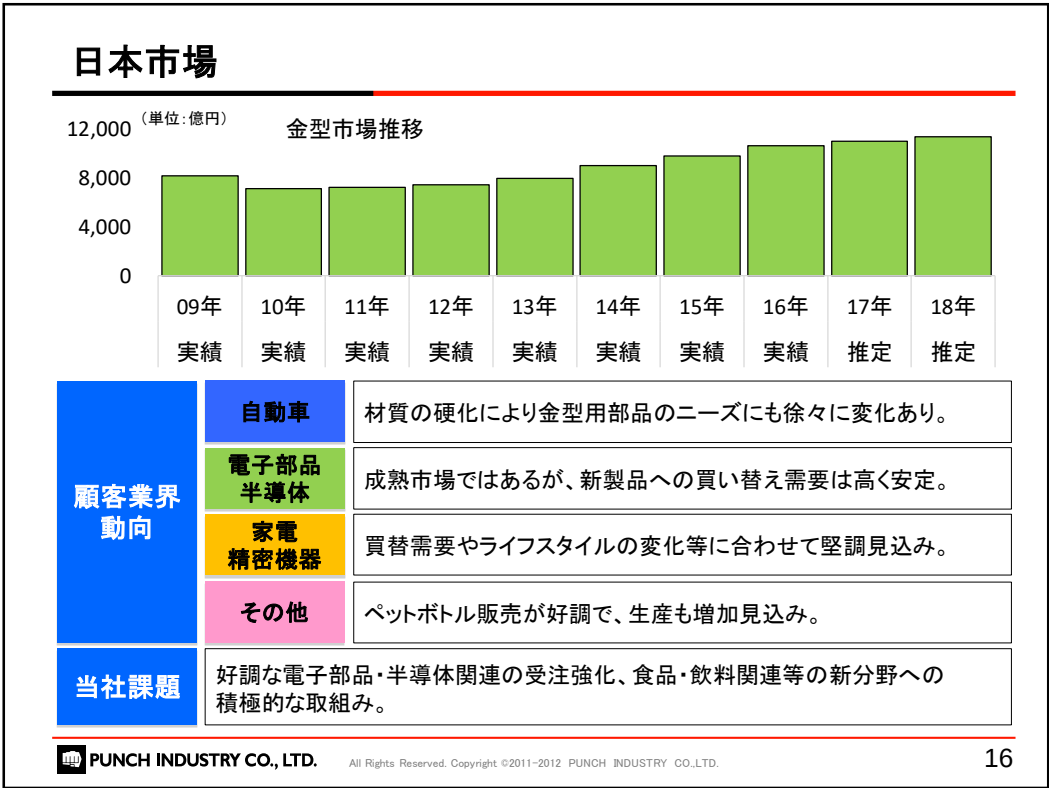
当該グラフは直近10年間の世界の金型市場規模をグラフにしたものです。

(国際金型協会等のデータをもとに当社にて推定)

■新興国の伸びが全体の伸びを牽引していますが、欧米も市場全体の約3割を占めている状況にあります。パンチグループとしましては、新興国の伸びに乗っていくことに加え、欧米市場での軸足もしっかりと築いていきたいと考えています。

■一方で、金型用部品の市場規模は、金型市場の約7%程度と推定し、2018年で、6,100億円超の規模と見ています。

金型市場も、金型用部品市場も着実に右肩上がりという認識です。

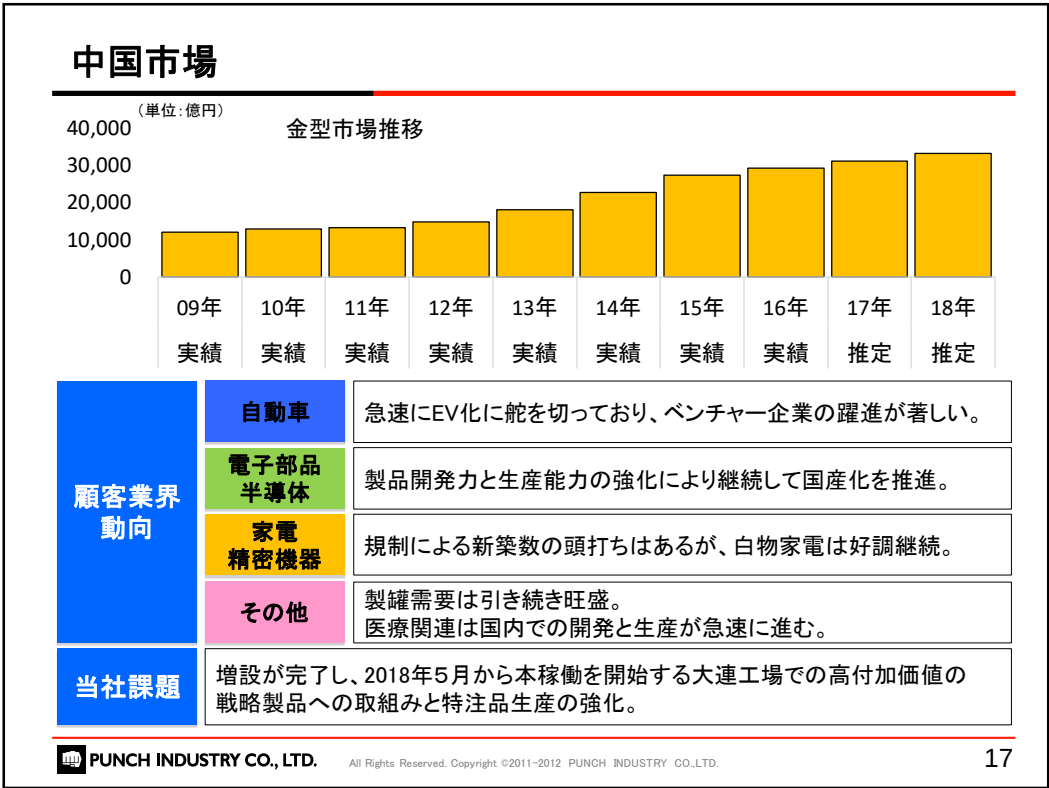


■日本市場です。
金型市場規模としては、約1兆円で微増傾向と見ています。

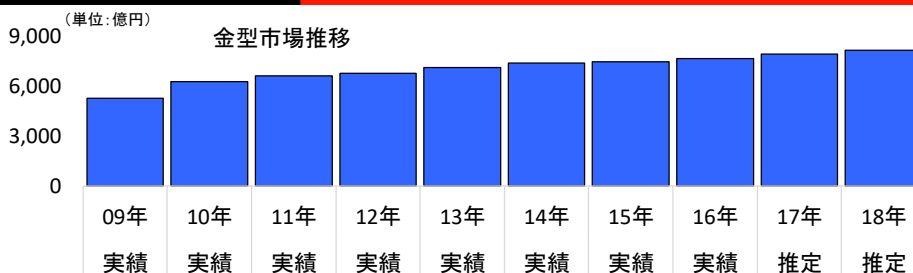
■大きな市場である自動車関連においては、EV(Electric Vehicle)化基調の中、車体等の軽量化ニーズも更に高まっていくことも想定され、材料の硬化に対応した金型用部品へのニーズや、超硬やコーティングといった高い技術力を求められる分野が注目されてきています。

■昨年は、年間を通して好調であった半導体においては、引き続き、2018年も堅調な状況が続くとみております。

- 当社の動き(計画)は、以下の通りです。
- 好調な電子部品・半導体関連の受注強化
 - 食品・飲料関連等の新分野への積極的な取り組み



東南アジア・インド市場



顧客業界動向	自動車	自動車普及途上にある国の経済成長とともに需要も拡大中。
	電子部品 半導体	スマートフォンの普及が進み、今後は中国以上の成長を見込む。
	家電 精密機器	普及率の低い新興国の伸びが索引することで、市場拡大を予測。
	その他	スマートフォンの普及に関連した情報通信分野の伸長を予測。
当社課題	ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化と欧米向け輸出事業拡大、並びに成長市場でのポジションの確立。	



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

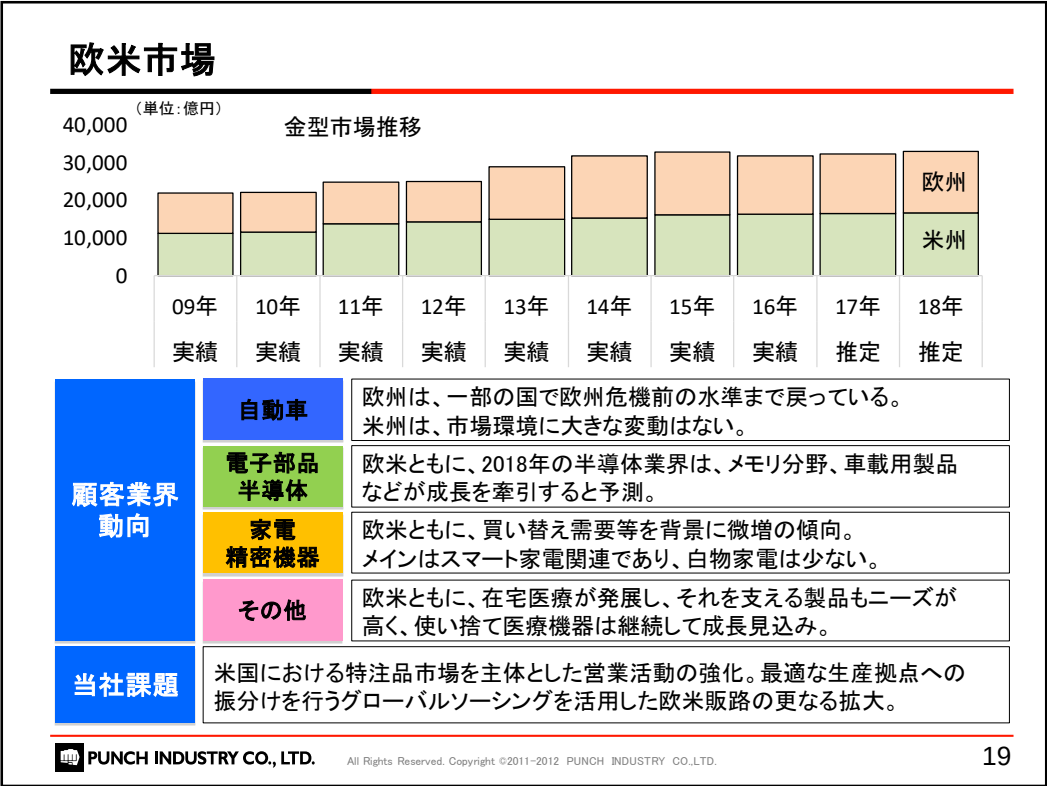
18

■ 東南アジア・インド市場です。

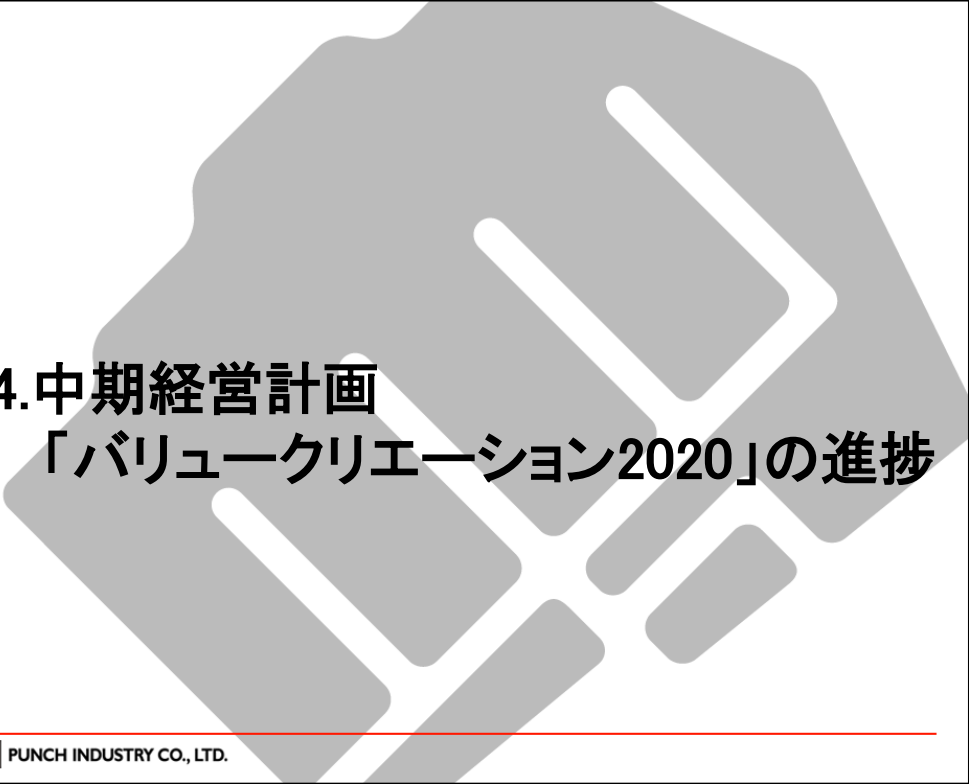
■ 多くの多国籍企業が東南アジアを製造・サービスのハブ拠点としており、パンチグループのお客様も多く進出しているため、グループ内における情報共有を一層密にし、お客様サービスの更なる拡充を図ります。

■ 当社の動き(計画)は、以下の通りです。

- 中期経営計画のポイントでもあるベトナム工場の生産体制強化に合わせたグループ生産体制の最適化
- 成長市場であるアセアン市場でのポジションの確立
- 欧米向け輸出の拡大



- 欧米市場です。
- 欧州の景気は、欧州危機前の水準まで緩やかに回復しています。
- 米州の景気は、回復基調にあります。米中通商関係等に不透明感があることもあり、トランプ政権の政策動向とお客様のセンチメントを注視したいと思います。
- 当社の動き(計画)は、以下の通りです。
 - 米国における特注品市場を主体とした営業活動の強化
 - 最適な生産拠点への振分けを行うグローバルソーシング機能を活用した欧米販路の更なる拡大

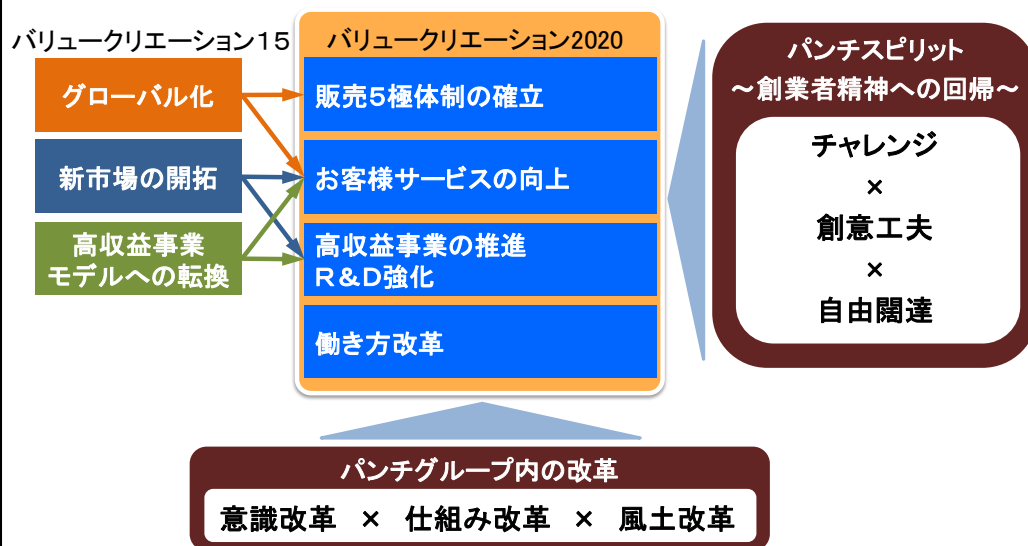


4.中期経営計画 「バリュークリエーション2020」の進捗

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 中期経営計画「バリュークリエーション2020」の進捗です。

連動する「バリュークリエーション」の重点経営課題



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

21

■「バリュークリエーション2020」の重点経営課題です。

■2015年度(2016年3月期)に終了した「バリュークリエーション15」では、「グローバル化」「新市場の開拓」「高収益事業モデルへの転換」の3点を掲げ取組んでまいりました。

■2016年度(2017年3月期)からスタートした5ヵ年計画「バリュークリエーション2020」では、「バリュークリエーション15」の三つの経営課題は引き継ぎながら、

- 販売5極体制確立(5極＝日本、中国、東南アジア・インド、欧州、米州)
- お客様サービスの向上
- 高収益事業の推進とそのためのR&D強化
- 働き方改革

という4つの重点経営課題を掲げています。

■そして、もう一つ、今回は社員の意識変革を起こすために、創業の原点に立ち返って、その創業の精神を「パンチスピリット」として制定し、「チャレンジ」「創意工夫」「自由闊達」の3つをキーワードとして掲げ、パンチグループ全体で取組んでいます。

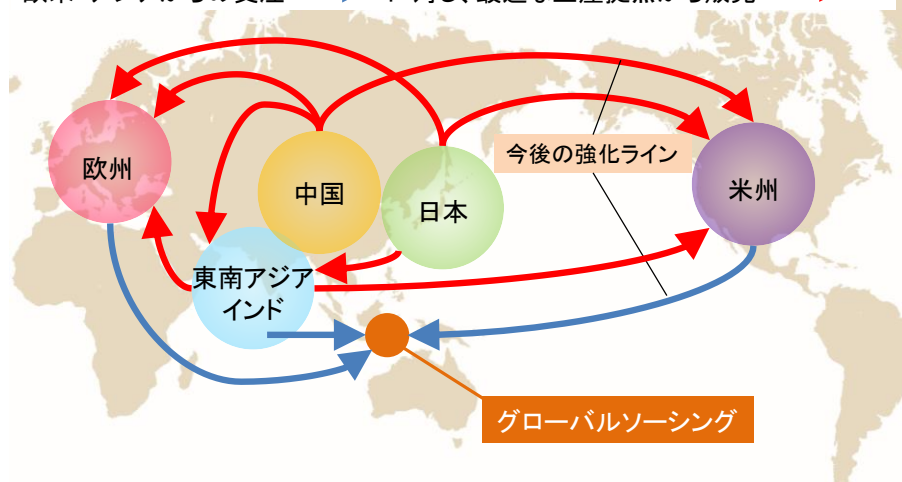
■以上が、「バリュークリエーション2020」の骨子であり、これらの取組みをベースに狙っていくのは、これまでも掲げている「世界のパンチ」を目指すということです。

グローバルソーシングによる販売強化

販売5極体制の確立

2018年3月期の売上前期比 欧州135%、東南アジア108%

欧米・アジアからの受注 → に対し、最適な生産拠点から販売 →



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

22

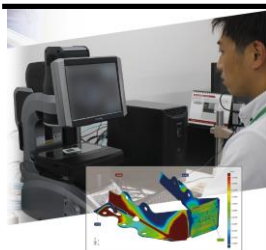
■「販売5極体制の確立」の取組み状況です。

■現状、パンチグループの拠点は、日本、中国、東南アジアということで、アジアに集中しており、欧米での販売体制の確立のため、1つの布石として、欧米・アジアからの受注に対し、最適な生産拠点から調達する機能を持った「グローバルソーシング」という部門をマレーシアに設立しました。

■見積もり業務を「グローバルソーシング」に集約し、最適な生産拠点へ振分けをすることで、日本・中国・マレーシア・協力工場の持っている資源をフル活用し、お客様の希望納期・コスト等にきめ細かく対応するサービスであり、これが特注品の受注増につながると考えたものです。

■結果として、欧州の売上が2年連続で2桁伸長という状況につながっており、今後は更に米国に対してもより供給力を強化したいと考えています。

■米国では、2017年4月に販売会社をイリノイ州に設立し、営業を開始して1年が経過し、手応えも感じていますので、更なる新規お客様の獲得や供給する製品のレンジを拡げ、パンチグループの強みの1つである「お客様密着型の営業体制」を実現することで、事業の幅も奥行きも広げていきたいと考えています。



コスト削減 品質向上 作業効率UP

リバースエンジニアリング
図面がなくても現物から3Dデータ化
でお悩み解決

デジタルエンジニアリングサービス MxM

Digital engineering service Measuring x Multipurpose

部品の形状測定データをマルチに活用!
ご要望仕様へのデータ化や再現物製作をスムーズに実現!

3D CADデータ作成

リバースエンジニアリング部品作成

形状測定データ



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

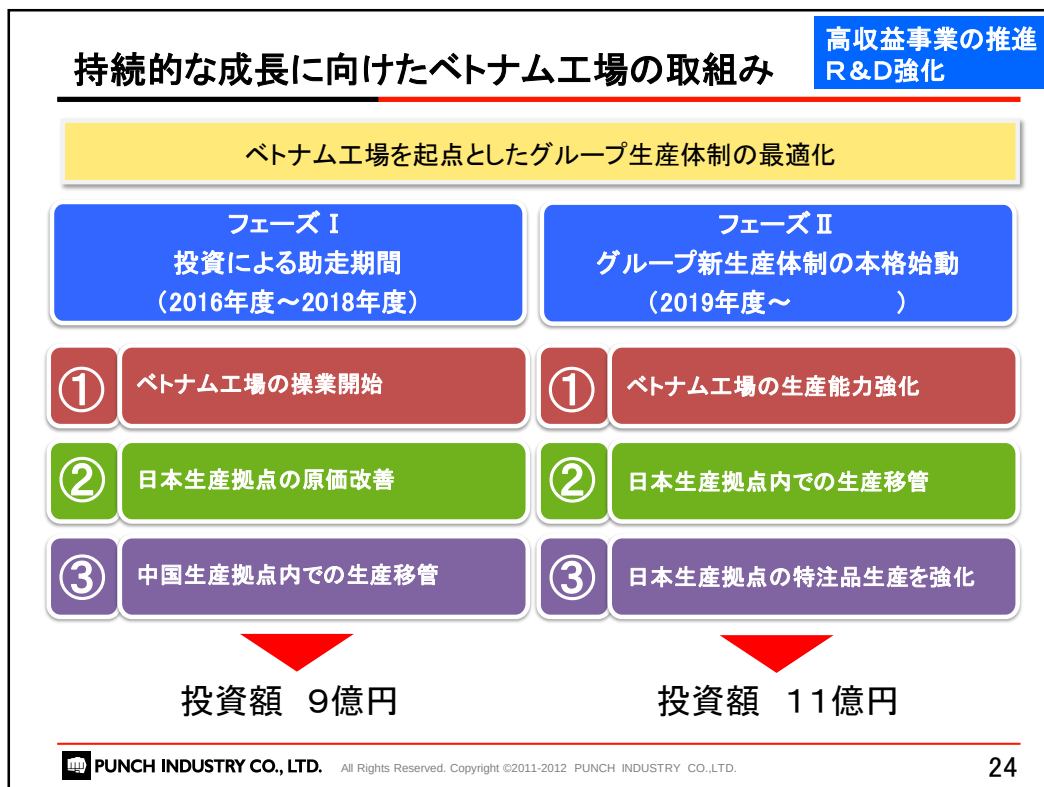
23

■「お客様サービスの向上」の取組み状況です。

■様々な施策を進めておりますが、「リバースエンジニアリングサービス」をより進化させた、「デジタルエンジニアリングサービス」への取組みを説明します。

■リバースエンジニアリングサービスと言うと金型用部品の再現のみの印象を受けると思いますが、現在では3D-CADデータのみでの販売や、多様な検査機器を保有しているメリットも活かし、形状測定し品質保証用データを提供するサービスも実施しています。

■従来は、「リバースエンジニアリングサービス」と称していましたが、説明の通り、過去2年間に取組んできた中で、ビジネスとしてのフィールドも広がってきましたので、以後は「デジタルエンジニアリングサービス M x M (Measuring x Multipurpose)」というキーワードで取組んでまいります。



■「高収益事業の推進とR&D強化」の取組み状況です。

大きなキープポイントは、2016年10月に稼働を開始したベトナム工場です。

当社としましては、「バリュークリエーション2020」の5年間における取組みを、2つのフェーズで考えています。

●2016～2018年度までのフェーズⅠ「投資による助走期間」

⇒ベトナム工場操業開始と、それに伴う中国からベトナムへの半製品（ブランク材）の生産移管が大きなポイント

●2019～2020年度のフェーズⅡ「グループ新生産体制の本格稼働」

⇒2019年から完成品（カタログ品）の一部の生産開始が大きなポイント

と位置付け、2019年3月期は、フェーズⅠの仕上げ期間であると同時に、フェーズⅡの準備期間となります。

■フェーズⅡにおいても、2019年3月期は、11億円の投資を予定しており、投資に伴う償却費の増加に加え、設備を動かすためのシステム開発、オペレーターの採用など費用が先行する時期となります。2019年3月期の営業利益が前年度から微増に留まっておりますが、その背景にはこのようなことがあるとご理解いただければ、と思います。

■「バリュークリエーション2020」の後半2年において利益増に繋げていくための重要な取組みであり、経営上の重要課題と認識し、体制も強化し着実に成果に結びつけてまいります。

以上がベトナム工場の取組みですが、パンチグループとしての狙いは、このベトナム工場をトリガーとした、グループ生産拠点（12工場）の最適化と特注品生産ドライブであり、これにより総合的な高収益化を狙っていくということです。

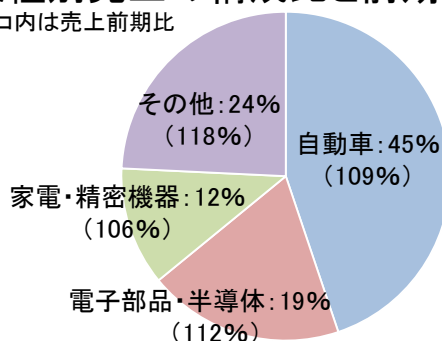
付加価値を生み出す生産体制

高収益事業の推進
R&D強化



■ 業種別売上の構成比と前期比

※カッコ内は売上前期比



■ その他内の前期比

食品・飲料関連	134%
医療関連	133%

PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

25

■続いて、ベトナム工場以外での「高収益事業の推進」という観点から、日本・中国の生産拠点での取組みについて説明します。

■前期(2018年3月期)の業種別売上の構成比と、それぞれの業種の前年からの伸長率を示したものです。

■大きな規模の「自動車」関連が1割近く伸長していることもさることながら、「その他」関連が約2割増と大きく伸びており、全体の売上増に貢献しています。

■「その他」関連の中では、従前より、新分野開拓の一環として、食品・飲料関連や医療関連の受注増に取り組んでいます。

売上金額についてはまだまだ開示出来るようなレベルではありませんが、連結ベースで、食品・飲料関連は前期比134%、医療関連は前期比133%の伸長率となっています。

■パンチグループでは、この景気変動の波を比較的受けにくい食品・飲料関連や医療関連の更なる強化のため、写真にもある通り、新規設備も導入し、生産能力の増強にも積極的に取り組んでいます。

増設が完了した大連工場の状況

高収益事業の推進
R&D強化



【工場増設の狙い】

■ 戦略製品のライン新設

■ 研究開発スペースの拡張

■ 将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保

■ 新規設備の導入状況

⇒ 食品・飲料関連の設備導入
⇒ 工程の負荷軽減が主目的

■ 本格稼働に向けた取組み

⇒ 新工場へ設備移動は完了
⇒ 旧工場のレイアウト変更中

■ 研究開発の内容

⇒ EV関連、航空宇宙関連等

■ 前ページと同じ「高収益事業の推進」という観点から、増設が完了した中国・大連工場の状況をご説明します。

■ 当該増設により、

● 戦略製品のライン新設

● 研究開発スペースの拡張

● 将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保

を行い、世界最大の金型市場である中国におけるトップポジションの維持及び更なる成長の為の特注品生産の強化と生産能力の拡大、という質・量の両面から対応します。

■ 中国におきましても、生産面では日本同様、食品・飲料関連の設備も増強し、研究開発面ではEV関連等にも取組み、以前より進めている高付加価値戦略製品の受注強化も併せ、新工場の本稼働に取り組んでまいります。

■ 中国でのビジネスは、邦貨換算では為替影響もありますが、現地通貨ベースでは、しっかりと成長させ、ベトナム工場での説明の通り、グループ生産体制の最適化、それに伴う特注品受注強化に向けた取組みとも同期させ、「高収益事業の推進とR&D強化」を具体的に推進し、グループ連結業績への貢献も高めてまいります。

【課題】カタログ品の粗利改善



バリュークリエーション2020期間の設備投資(計画)
2017年3月期～2021年3月期

140億円

【重点】食品・飲料、医療機器関連



■コスト力勝負

⇒ベトナムシフト(カタログ品)

■技術力勝負

⇒日本+中国(特注品)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

27

■「グローバル生産体制の再編」の取組み状況です。

今まで説明してきた内容も含め、バリュークリエーション2020の5年間の投資総額は140億円を予定しています。

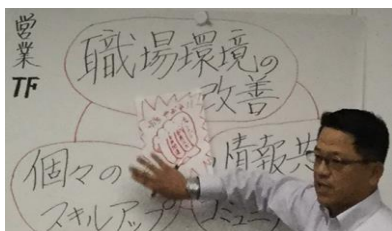
■特に注力していく分野としましては、既に、いくつかの芽が育ちつつある、食品・飲料関連、そして、これまでもじっくりと取組んでいる医療関連、それらに加え、10年後も見据えた、新分野への投資を計画しています。

■投資効果として狙うのは、「グローバル生産体制の最適化」であり、

- コスト力勝負が必要なカタログ品はベトナム工場で生産を行う

- 技術力勝負が必要な特注品は、日本と中国において強化する

という内容であり、パンチグループの売上と利益を更に一段の高みへと上げる取組みになります。



 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■有給取得率 ・初の5割超え

■残業時間 (2017年度の前期比)

- ・工場部門
21～43%削減
- ・営業部門
29～36%削減
- ・管理部門
18～54%削減

■「働き方改革」の取組み状況です。

■2016年10月より社内で「働き方改革委員会」が発足し、個々のメンバー自身の自分のチャレンジで、仕事を変え、会社を変えて行こう、という意気込みで多くの課題に取り組んでまいりました。

■結果として、2017年度(2018年3月期)は有給取得率が初めて5割を超え、残業時間も部門に幅はありますが、大きく改善できた部門もあります。

■一方、世の中では、裁量勤務、テレワーク、女性活用、外国人雇用、等々、働き方に関する様々な議論や、それらをサポートする多様なITテクノロジーの開発が進められております。当社としても、これらの潮流に後れを取ることを無いう、

●「人」を活かす経営

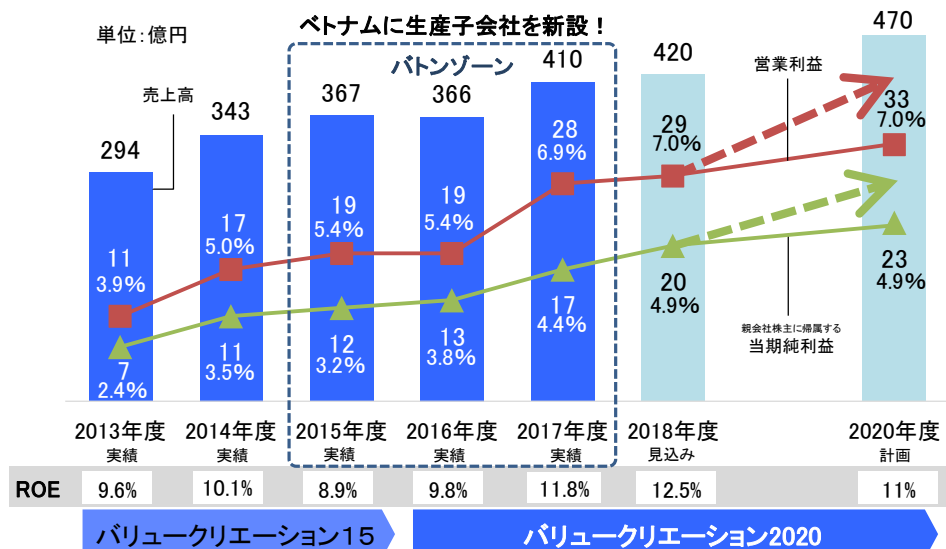
●「人」に依存しない経営

という一見相矛盾する課題に中長期的視点で取り組んでまいりたいと考えています。生産体制最適化といったことも、この課題に深くかかわるテーマと位置付けて取り組んでいきたいと思ひます。

■パンチグループの強みである、一気通貫の生産体制やお客様密着型営業体制、そして将来を見据えた研究開発等、担っていくのはすべて「人」ですので、この「人」という経営資源を活性化していくことが極めて重要な経営課題であると認識し取り組んでいます。

経営目標 売上・利益の推移

2020年度 売上高470億円以上 営業利益33億円以上 当期純利益23億円以上



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

29

■「バリュークリエーション2020」の経営目標 売上・利益の推移です。

■終了しました2018年3月期や今期の2019年3月期の見込みは、売上は為替換算の影響があるものの、営業利益以下は「バリュークリエーション2020」の進捗において、1年前倒しで堅調に推移しています。

■2020年度(2021年3月期)の経営目標は、

売上は470億円以上、

営業利益は33億円以上、

親会社株主に帰属する当期純利益は23億円以上、

を目指しています。バリュークリエーション2020の3年目である現在、この最終目標を更に上回るために、パンチグループ一丸となって各施策に取り組んでいます。

■「バリュークリエーション2020」の経営目標における基本的な考え方は、

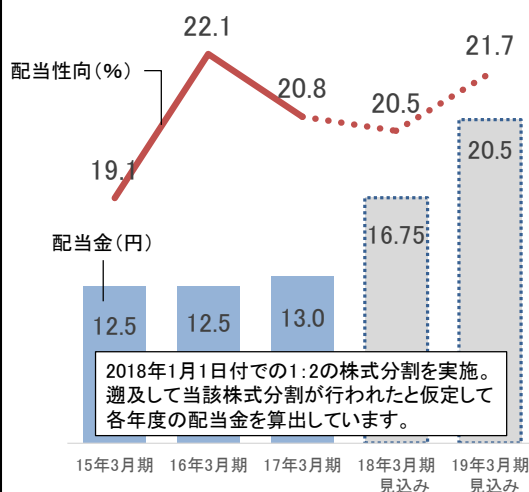
- 稼働を開始したベトナム工場を、しっかりと運営する
- 欧米での販売体制を確立し、販売5極体制の推進を行う

ということです。

1株当たり配当金と配当性向

【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、増配基調を維持しつつ、段階的に引き上げることが目標。



継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆様からの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営上の重要課題。

2019年3月期の配当
中間・期末ともに10円25銭
= 20円50銭予定(3円75銭増配)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

30

■ 1株当たり配当金と配当性向についてです。

■ パンチグループは、2012年12月の上場を期に、「世界のパンチ」を目指して新たなスタートを切った会社であり、まだまだ成長に向け、R&D投資、IT投資等も含めた戦略投資も必要なステージにある会社であると考えています。

■ 一方で、内部留保と還元のバランスもとりながら、「バリュークリエーション2020」で掲げた4つの重点経営課題に取組み、持続的に成長していく中で、株主の皆様への還元にも取り組んでまいります。

■ 引き続き、高収益体質を実現していくことで、増益・増配基調を堅持しつつ、盤石な財務基盤と高いROEの両立を目指します。

トップメッセージ

- ① ベトナム工場のフェーズⅡ移行準備の推進
 - ② 新規お客様獲得による欧米への販路拡大
 - ③ 高付加価値を生み出す「ものづくり」の推進
 - ④ ステークホルダーの皆様の期待値に応える
- 

■トップメッセージです。

■2019年3月期に実施する施策を整理したチャートとなります。

- ①ベトナム工場のフェーズⅡ移行準備の推進
- ②新規お客様獲得による欧米への販路拡大
- ③高付加価値を生み出す「ものづくり」の推進

■これらに取り組むことにより狙うのは、ステークホルダーの皆様の期待値（業績、還元、等々）に応えるということであると心得、これを最優先課題として取り組んでまいりたいと考えています。

■各資料につきましては、当社Webサイトよりご覧ください。

◆決算短信

<http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

◆決算説明資料

<http://www.punch.co.jp/ir/library/setsumei.html>

◆IRニューズ一覧

<http://www.punch.co.jp/ir/2018/>

参考資料



会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	4,298名(グループ連結、2018年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)

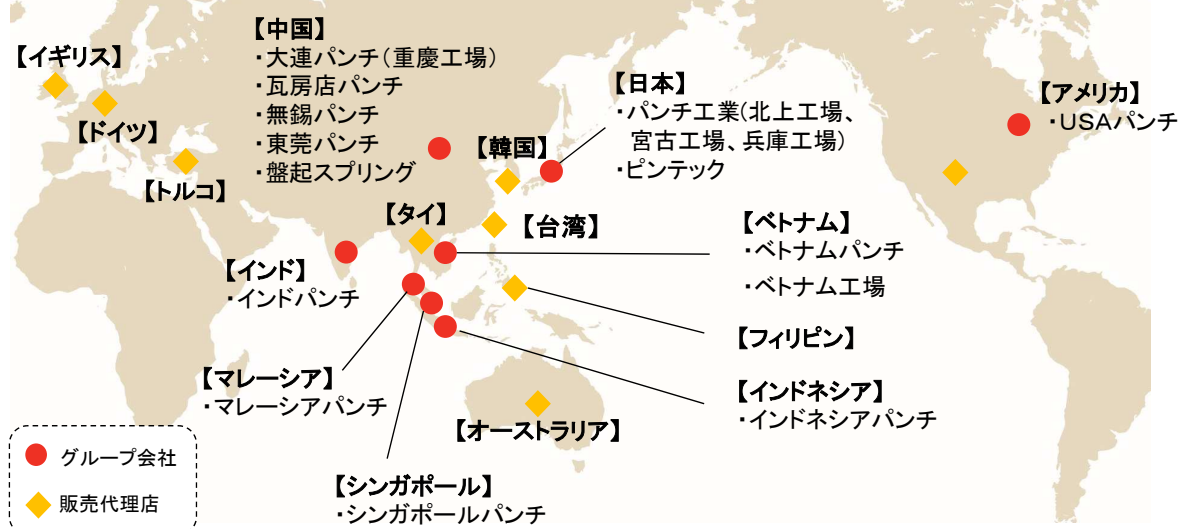
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

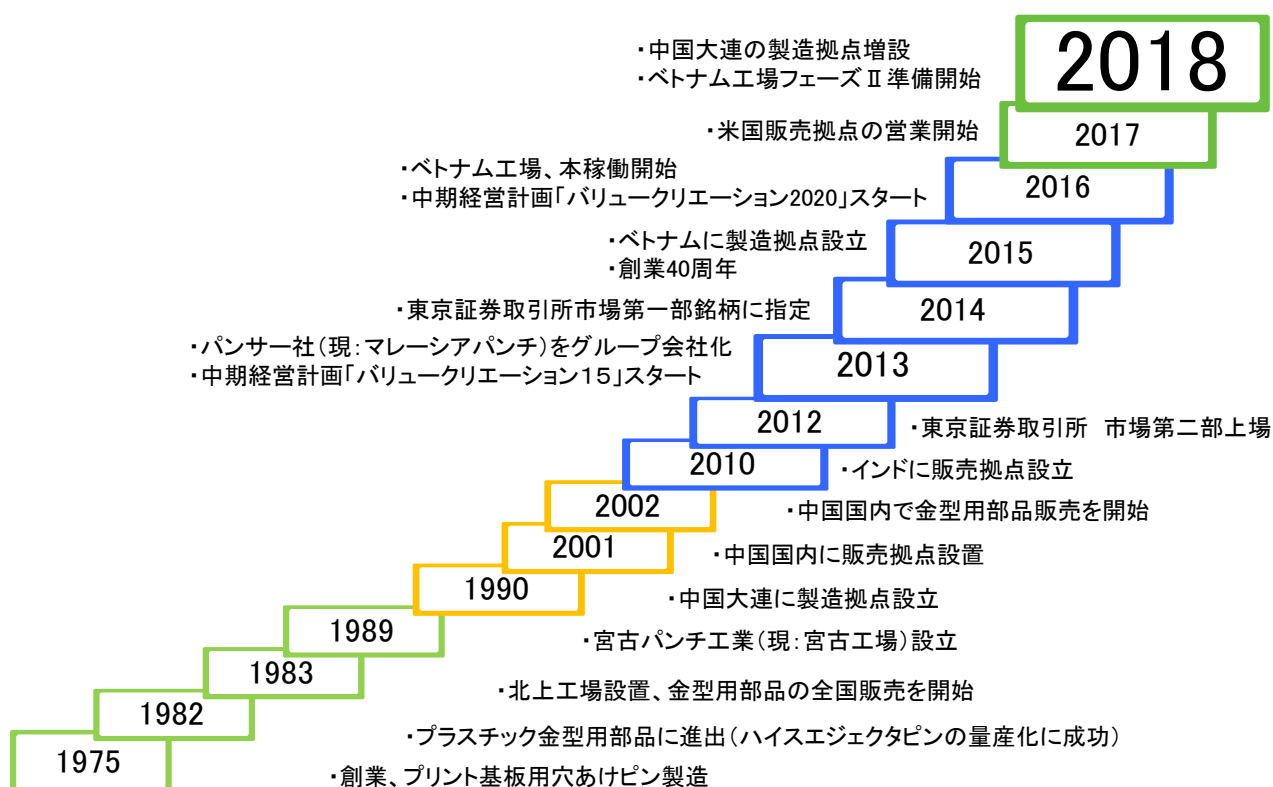
日本	海外
4	8
カ所	カ所

販売拠点数

日本	海外
12	40
カ所	カ所

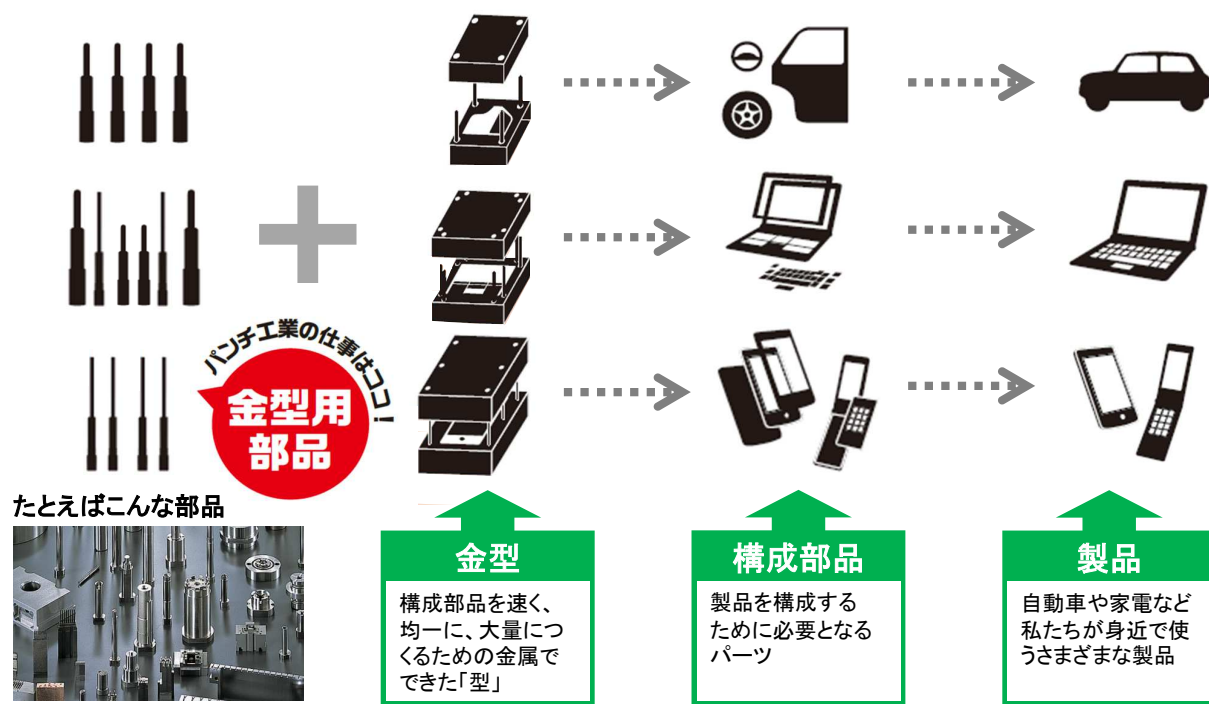


沿革



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



プラスチック金型と金型用部品

プラスチック金型

射出成型機

エジェクタピン

スプルーブシュ・ロケットリング

リターンピン

ノックピン

ストップピン

エジェクタピン

エジェクタロッド

エジェクタガイドピン

エジェクタガイドブシュ

ガイドピン

ガイドブシュ

テーパピンセット

ロケットリング

螺旋水管

スプルーブシュ

●プラスチック金型用部品について

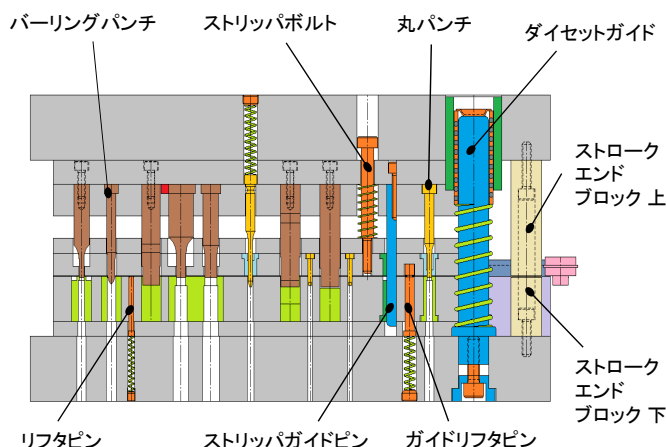
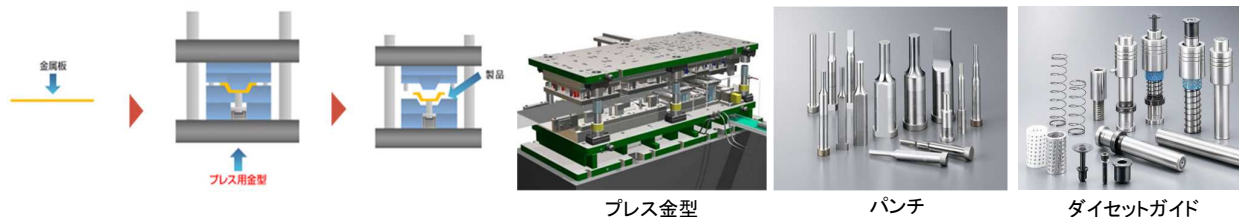
プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られています。

当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エジェクタピン... 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スプルーブシュ... 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品

プレス金型と金型用部品



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用する金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

パンチ…………… パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品

ダイセットガイド… 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

38

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供



カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ

スピーディーなソリューション

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応



一気通貫の生産体制

1,900台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制

きめ細かな対応・提案力

高い技術力

創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

39

CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

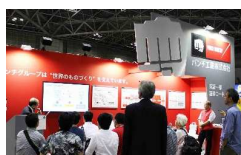
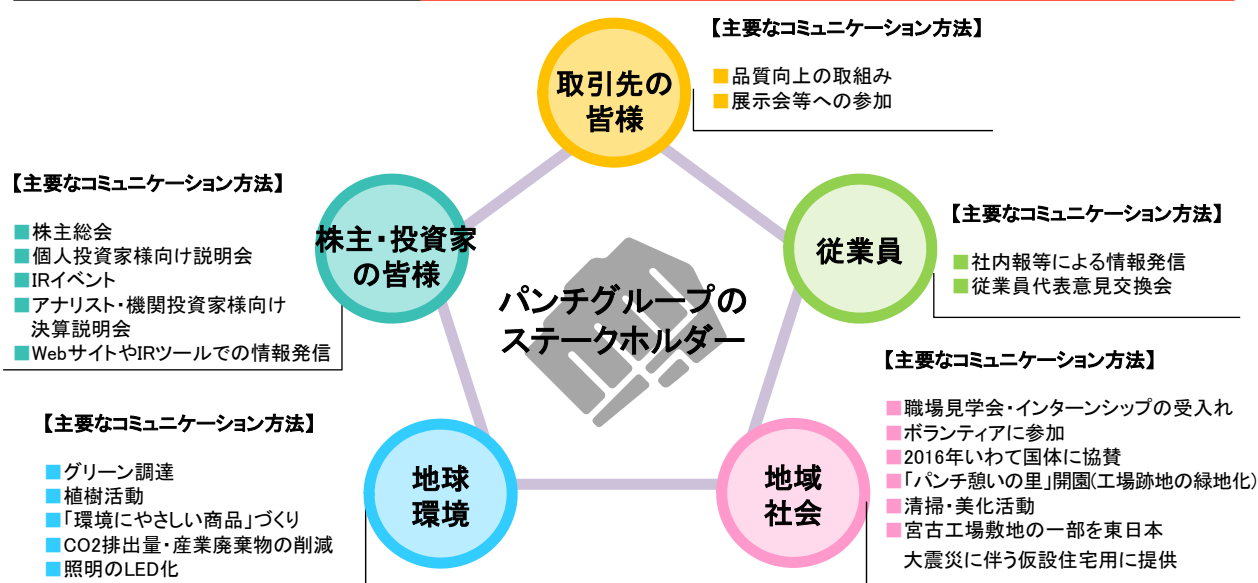
企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

ステークホルダーとのコミュニケーション



IRイベント出展



「パンチ憩いの里」開園
(工場跡地の緑地化)

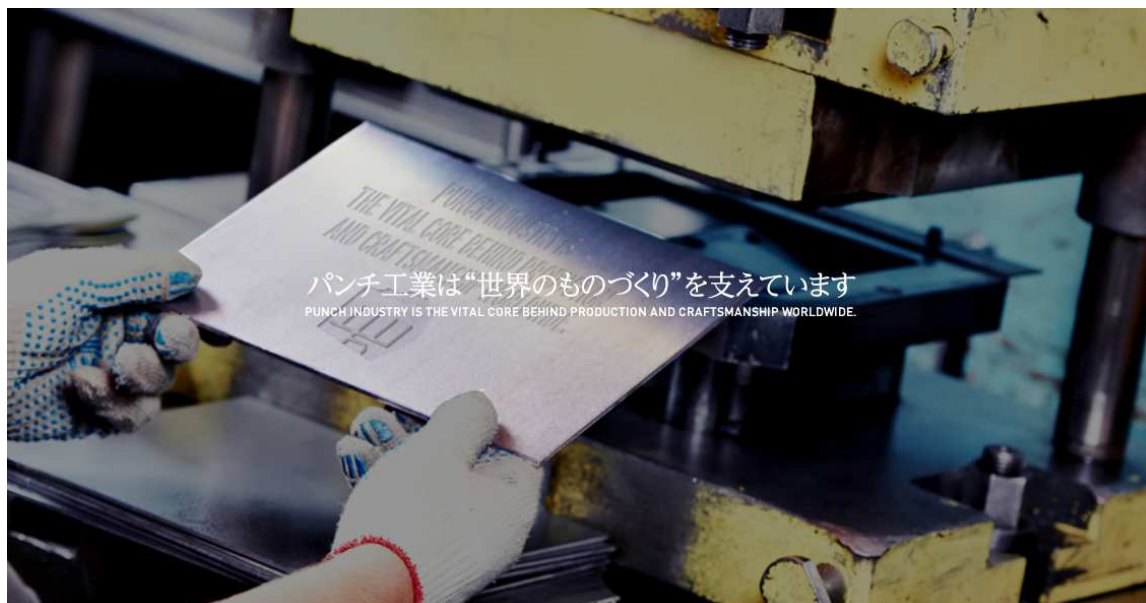


職場見学会



ボランティア活動
(2016年いわて国体)

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。